

令和4年度 学校関係者評価報告書

令和5年2月21日

午後2時10分

学校法人双葉学園 ふたば認定こども園双葉幼稚園

学校関係者評価委員会 18名

1. 本園の教育目標

①自分で考え行動し、最後までやり抜く子 ②優しく思いやりのある子

③伸び伸びと自分を表現できる子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂を踏まえて、一人一人の園児を大切にしたい質の高い教育・保育を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の十分な理解を図る	B	園内研修において定期的に学習していることもあり充分ではないにしても基本的な理解が得られているようであり、理解の度を深めるためにさらなる取り組みが必要である。
2	質の高い教育保育の達成のために積極的に研修会への参加や園内研修を充実させる	B	積極的に参加している保育教諭がいる反面、昨年同様、保育担当の関係上なかなか研修会への参加が出来にくい保育教諭もあり、その分園内研修の充実を検討し取り組んできた。
3	十分に幼児理解ができるように努める	B	それぞれの保育教諭が園児や保護者に積極的に係わって家庭の様子や園児の日常を全員で共有しようとミーティングを十分に行っている。
4	職場における自分の役割を十分に果たす	A	職員一人一人が、自分の職務を良く理解して責任ある行動を取ることが出来ている。
5	保護者との円滑な連携に努める	A	おたよりの充実やこまめな連絡帳のやりとりで保護者との円滑な関係を気づくことが出来た。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

4. 学校評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
A	昨年同様5つの項目に関して重点的に取り組んできた結果、一人一人の保育教諭が本園の教育目標を意識しながら保育に携わっており、専門知識の習得に関して園内研修を継続して行っているものの習熟度に停滞の嫌いがあるが、積極的に研修会等に参加しており今後期待が持てると同時に、勤務に対する意欲や態度において充分評価ができる。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	専門知識習得	教育保育要領の内容に対するより深い臨床的理解が進むよう取り組む
2	創意工夫	積極的に新たな教材研究に取り組み、園児が登園を楽しみにするような教育保育内容を図るようお互いが情報交換をしながら創意工夫に心掛ける
3	向上心	今までの保育内容の検証をするとともに、現状に更なる積み重ねを目指し、新しい教材の発掘や専門的な知識を習得するよう努力する

6. 学校関係者評価委員会の評価

子ども達一人一人が、本園の教育理念に則り、のびのびと自分を表現できる環境を整える努力が見られた。幼保連携型認定こども園の要領の理解には、概ねできているものの不十分なところも見られるところがあるので、段階的な学びが必要であると感じる。多くの職員は、本園の教育目標をしっかりと理解して保育に取り組んでおり、子ども達の成長が感じられた。教職員同士の連携が出来ようになったことにより、保護の対応にも成果が見られ、今年度も苦情は出てこなかった対応は評価ができるものである。今後も更なる向上を目指して園づくりを行って欲しい。